

魔法の Medicine 活動報告書

報告者氏名： 徳永 みき 所属： 鹿屋市立寿小学校 記録日： 令和3年 2月10日

【対象児の情報】

○学年

小学3年生・特別支援（情緒障害）学級在籍

○障害名

注意欠損多動性障がい（ADHD）・高機能自閉症 疑い

○障害と困難の内容

<生活面>

- ・自閉症情緒障害特別支援学級在籍3年生（本年度入級）
- ・自分の好きなことを優先させてしまい、時間割通りに行動できない。
- ・短期記憶が弱く、他の事を始めるとしていたことを忘れてしまう。そして、また次の行動を起こしてしまい、本来すべきであったことを忘れてしまう。
- ・周りの環境に刺激を受けやすく、衝動的な行動が原因で、友だちとトラブルになることが多い。
- ・自分がおもしろいと思ったことはとっさにやってしまうが、それで相手がどう思うかまでは理解しにくい。
- ・自分がしたことを振り返って思い出すことが苦手。

<学習面>

- ・知的水準は平均値内であるが、WISC-Ⅲの結果より、言語性が動作性に比べて有意に低い。
- ・課題を見た瞬間に難しそうだと感じると、取り組もうとしない。
- ・注意力が継続せず、同じ課題を長く続けることが困難。
- ・タブレットについては、操作方法を触っているうちに感覚的にすぐ覚え、カードが集められたり、ステージクリアしていけたりする学習アプリだとゲーム感覚で長い時間取り組める。

【活動目的】

○当初のねらい

- 1 見通しを持たせたり、今すべきことを意識させたりすることで、学習に取り組める場面を増やす。
- 2 「できた」を積み重ねることで、学習への意欲につなげ、学習内容の定着を図る。
- 3 具体的場面での自他の気持ちを整理・理解させることで、本人も友だちも心地よい関係で遊べる機会を増やす。

○実施期間

令和2年6月～令和3年2月10日

○実施者

徳永 みき

○実施者と対象児の関係

特別支援学級（情緒障害学級）担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

<生活面>

- ・多動的傾向が強く、一斉授業での着席が難しく、教室を歩き回ったり教室外に出てしまったりすることが多く、時間割通り行動できず、学校生活のルールや学習が定着してきていない。
- ・朝、帰り、給食の準備等の習慣が定着しておらず、一日中ランドセルが机の上に置いてある。
- ・粘土遊びや泥遊びなどの感覚遊び、パズル等が大好きで長時間集中して遊んでいる。また、遊びを思いつく

ことが得意だが、友だちと遊ぶことになると、自分のルールを押し付けてしまい、けんかになってしまう。

<学習面>

- ・国語・算数・道徳は支援学級。社会・理科・体育は支援員と一緒に通常学級で学習。その他、音楽・学活・外国語活動などの教科は、一人で通常学級の授業に参加。
- ・国語：音読はたどたどしい。本は文章を読もうとせず、絵を見て楽しむが、絵の中から情報を見つけ出すのは得意。拗音・促音・拗促音はまだ書けない。漢字は、1年生の漢字の読みはだいたいできるが、書きは、3分の1程度。基本的な書き順が定着しておらず、形の組み合わせのような書き方をしたが、字形自体は整っている。(学習不足の可能性と見ている)
- ・算数：10以上の数を、10の塊で意識した数の表し方を習得していない。一桁のたし算、引き算からの学習をスタートする必要があると考えている。九九は、家庭で母親や兄弟と一緒に唱える練習をしており、1～5の段までだいたい言える。時計の読み、時間の感覚はまだない。
- ・交流学級での支援員がつかない授業(音楽や学級活動等)では、教室を抜け出して外で泥遊びをしてしまうことが多い。

○活動の具体的内容

- 1 **見通しを持たせたり、今すべきことを意識させたりすることで、学習に取り組める場面を増やす。**

- (1) 時間割ボードで、1日の見通しを持たせる。

- ・教科名、場所、先生の写真を貼らせることで確認する。
 - ・帰りに一日を振り返り、できたところを称賛する。
- タブレットで、今の時間割を確認する。
- ・「学校のチャイム」というアプリで、今何時間目かを自分で確認できるようにする。

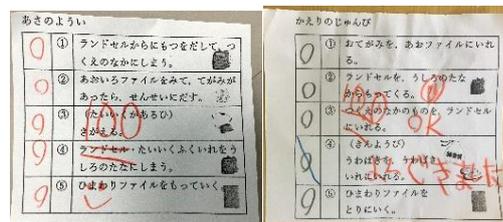
時間割ボード 「学校のチャイム」



- (2) 朝、帰り、給食の準備等を、手順カードで確認する。

- ・最初のうちは、手順カードを教師と復唱しながら、手順を学ぶ。
- ・日課をパターン化し、習慣化に導く。

準備・片付けチェックカード



- (3) 交流学級での支援員がつかない授業では、ルールを決めて、授業参加を促す。

- ・交流学級担任や音楽専科の先生と連携し、授業中のA君ルールを決めたり、外に出る時は、どこに行くのか、いつ戻るかを約束してから出るというルールを決めたりして、まずは授業中と休み時間の区別を意識した行動を心がけさせる。その際、確認用ヘアゴム(場所を書いた紙をヘアゴムに止めたもの)をつけて出ること、忘れても思い出せる手立てとする。

確認用ヘアゴム



- 2 **「できた」を積み重ねることで、学習への意欲につなげ、学習内容の定着を図る。**

- (1) 刺激の少ない学習環境を設定する。

- ・本人が集中して取り組める机の配置や物の配置、タイマーを使って集中力を養う。

- (2) 学習内容に見通しをつけさせ、また、終わったらチェックすることで達成感を味わわせる。

- ・タブレットの「DropTalk」で、支援学級で学習する内容の一日分(2時間から



3時間分)を学習する順番に並べさせ、終わったらチェックを入れさせる。(気が散りやすく、気分次第では全く取りかからないこともあるため、1単位時間ごとの学習計画設定が難しい。そのため、いくつかの学習内容を一日のうちに終わればOKでご褒美の課題を最後に入れることで、達成感を持たせる。)

- (3) タブレットで学習したことが、ペーパーでの学習に生かせるように、本人の興味・関心の続く学習形態やアプリを模索しながら、学習を進めていく。

支援学級の学習
スケジュール



主な学習アプリ

<p>国語</p>       <p>算数</p>   <p>朝読書・理科・社会</p>  	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなビューア」(デジタル教科書)→教科書の読み練習・内容理解。 ・「書き順レコーダー」→筆順の確認。 ・「国語海賊」→漢字の復習。 ・「書き順ロボ」→漢字の筆順と読みの復習。 ・「筆順常用漢字」→漢字・筆順調べ。 ・「どんぐり」(辞書)→意味調べ・漢字調べ。     
	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくらんぼ計算で繰り上がり足し算マスター」→計算のブロック操作。 ・「あんざんマン」→計算練習の復習。
	<p>【朝読書・理科・社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み放題」→音声で補うことで、絵本を楽しむきっかけにする。 ・「NHK for school」→理科・社会の授業の予習・復習。

(4) 週2～3回はタブレットのアプリ, その他の日は, プリント課題を宿題に出すことで, 学習の定着を図る。

- ・宿題としてする学習アプリは, 教師が指定したものとし, DropTalk の中に入れておき, 終わったものをチェックさせる。
- ・PhotoMemes の中に学習記録を残させることで宿題提出の代わりとし, 次の日教師が確認し, できたことを称賛する。
- ・PhotoMemes の中に, 学校で学習した内容や学習している様子の写真などを記録として残し, 持ち帰った日に家族に見てもらうことで, 称賛の機会をふやす。



3 具体的場面での自他の気持ちを整理・理解させることで, 本人も友だちも心地よい関係で遊べる機会を増やす。

(1) 交流学級での理解教育

- ・年間を通して, 交流学級での理解教育を行う。

(2) 起こりそうなトラブルを予測し, 事前に具体場面を想定した自分と相手の気持ちを整理し, 考えさせておく。

- ・写真やイラストを用いて, 理解をうながす。

(3) 衝動的に行動してしまった時には、後で心を込めて謝ればOKのルールにする。

- ・「やってしまったことはしょうがない、次はできるように、今回は謝ろう。」という肯定的な受け止め方を、本人もまた周りもできるように声かけを続ける。そして、まずは謝れたことを褒め、また、正しい行動が取れた瞬間を称賛するようにする。

○対象児の事後の変化

1 学習に取り組める場面が増えてきた。

- ① 時間割通りの場所にとどまり、学習することができるようになってきた。

4月当初、支援員がつかない交流学級での授業では、1時間に何度も教室を抜け出し水遊びをしていた。朝時間割ボードで、時間割を確認するとともに、まずは音楽の時間を音楽室で過ごせることを目標とし、音楽専科の先生とA君で授業中のルールを決めてもらった。(音楽の時間のルール参照)また、音楽室から出る時には、場所を書いたヘアゴムをつけてから出る許可をするよう専科の先生と確認。また、友だちに迷惑をかける行為をした時は、本人の言い分も認めながら指導したり、きちんとルールを守れた時には称賛したりすることで、5月後半頃には、音楽の授業を1時間受けることができるようになった。その後、交流学級担任とも同じルールをA君と確認してもらい、1学期の終わり頃には、ほとんどの授業で教室を飛び出すことはなくなった。

その後、音楽の時間、授業時間の場の共有(教室を飛び出さない)が定着してきたことから、次のステップに移ることにした。1時間に1つ頑張ることを音楽専科の先生と確認し、達成できたら赤シール、達成できなかったら青シールを貼る。このことで、場の共有から、授業参加への意識へと移行を図っていった。11月から開始し、少しずつできる日が増えてきた。

音楽の時間のルール

- ・教室の後ろなら移動してもよい。
- ・友達のものとはさわらない。
- ・音楽室を出る時は先生に必ず伝える。
- ・時間を決めて、必ず時間内に帰ってくる。

月日	がんばること	シール
11/13	パズルのせむしつくりをみんなに合せて遊ぶ。(クッキング)	赤シール
11/27	パズルのせむしつくりをみんなに合せて遊ぶ。(クッキング)	赤シール
12/7	パズルのせむしつくりをみんなに合せて遊ぶ。(クッキング)	赤シール
12/11	パズルのせむしつくりをみんなに合せて遊ぶ。(クッキング)	赤シール
12/14	パズルのせむしつくりをみんなに合せて遊ぶ。(クッキング)	青シール

- ② 朝・帰り・給食の準備が、自分でできるようになってきた。

ランドセルは、朝から机に置きっぱなしのことが多かった。準備・片付けチェックカードを本人に渡し、全ての項目のチェックを終わらせるように声かけをした。できたかどうかの確認を教師と数回行くと、その後は一人で準備・片付けを済ませ戻ってくるようになった。そして最後に、カードなしでも準備を済ませることができるようになってきた。

音楽達成シールカード

- ③ 掃除時間に、掃除場所に時間通り移動し、掃除に取り組むことができるようになった。

掃除時間であることは理解しているものの、4月当初は、教師が迎えに行くまで外で遊び続けたり、掃除に行くことを渋ったりすることが多かった。一度、自分で時間通り掃除場所に来れた日があったので賞賛し、その時刻を写真に撮り、「明日もこの時間に来れるといいね。」と数日確認を続けたところ、6月後半には、掃除時間になるときちんと掃除場所に移動できるようになり、今では積極的に拭き掃除を頑張っている。

アプリ シンプルノート



2 学習への意欲が出てきて、学習内容が定着してきた。

- ① 一定時間、自ら学習に取り組む姿勢が見られるようになってきた。

一人でする課題を与えると、「先生、先生。」と呼び続け、数分でも一人で机に向かって取り組むということが難しかった。また、他の児童の動きや教室にあるものが気になり学習に向かうのが困難であった。そこで、自学の時間、集中して学習できる環境を整えることにした。

掃除に来れた日の記録



集中できる環境作り



※ 他児童の動きが目に入らない場所に机を移動。棚の上には物を置かず、棚には目隠しのカーテンをつけた。(赤丸) その後、A君が、教室後方のへこんだ部分の方が集中できるというので、机の場所を移動。(青丸)

1日に、支援学級で学習する時間は、算数と国語で2時間～3時間。1日のうちに学習内容を終わらせることを目標にA君と一緒に課題を決め、DropTalkにスケジュールを作成。一番最後にご褒美の課題(粘土やパズル、A君の好きなアプリ等)を設定することで学習意欲を持続させることができた。また、学習を始めた5分間は、先生に話しかけずに自分で課題に取り組むと約束し、教師がタイマーを設定し、まずは5分間黙って学習することから始めた。(タイマーがA君の手元にあると遊んでしまうため、教師の方で設定)1学期の終わり頃にはプリント1枚終わらせる(15分程度)まで、一人で学習に向かえる姿も見られるようになってきた。

② 学習への理解が少しずつできてきている。

<国語>

教科書の内容理解

光村デジタル教科書「まなビューア」を用いて、本文の音声を聞き、挿絵の並べ替えやワークの「要点」を考える活動を行うことで教材の内容を少しずつ理解することができた。また、音声に合わせて音読練習することで、「読み」をスムーズにすることができた。



挿絵の並べ替えで
内容理解



音に合わせて音読練習

漢字練習

授業では、①フラッシュカードで「読み」の確認。

- ②「書き順レコーダー」で筆順の確認後書き取り練習。
- ③「どんぐり」や「筆順常用漢字」で筆順や使い方を自分で調べて短文作りを行うことで漢字練習が自分でできた。

宿題や自学学習では、①「書き順ロボ」で筆順②「国語海賊」で漢字の読み書きの復習を行い定着が図られた。

授業で



①読み練習

②筆順確認



宿題や自学学習で



定着を

③調べて書き練習



筆順
常用漢字



→物語文「スイミー」「お手紙」「ふきのとう」などの音読、読み取りができた。

→基本的な内容の1年生の漢字の書き取り、2年生の漢字の読みは、ほぼできるようになった。

- 朝活動の読書の時間は、「読み放題」のアプリを用いて、自分の好きな本を楽しんでいる。分からない言葉が出てくると「どنگり」で調べたり、お気に入りの場面を友だちや教師に紹介したりする姿が見られた。



読書の様子

<算数>

- 10までのたし算・ひき算までの学習はスムーズに進み、20以上の数も理解していたことから10より大きくなるたし算に入った。しかし、計算しながらA君が「あれ？全部答えが10になるよ。」とつぶやいた。そこで、ブロック操作で計算するように促したが、気が散りやすいA君はブロックで遊び始めてしまい、机の上が散乱すると余計に集中することができない。そこで、アプリ上でブロックを操作しながらたし算の練習ができる「さくらんぼ計算で繰り上がり足し算マスター」で練習した後に、プリントでの計算に移行することにした。



10+2=10
8+4=10
あれ、全部10になるよ。

ついついブロックで遊んじゃうんだよね。



授業で

アプリでブロック操作を覚えて10のまとまりを考えて、計算ができるようになった！

宿題や自学学習で

計算練習

- 「ぷりんときっず」の「さくらんぼけいさん」のプリントを用いることで、段階的にさくらんぼによる計算ができるようになった。10より大きいひき算は、10のまとまりを意識することができるようになっていたので、プリント学習だけで、計算方法を理解することができた。

- 保護者との話し合いで、学童へ行かない日（週に1～2回）にタブレットを持ち帰ることになった。そこで、タブレットを持ち帰った日はアプリの宿題、学童の日はプリント課題の宿題を出すことにした。タブレットの宿題は、教師が指定した内容のアプリとし学習を終えれば好きなアプリをしてもいいルールにすることで、宿題をする習慣が付き、保護者から「自分から宿題をしてくれるようになってうれしい。」とのコメントをいただいた。また継続的にアプリでの学習を進めることができ、定着を図ることができた。

※学習用として持ち帰ることを前提に、タブレットは、21:00～翌6:00まで使用不可に設定、アプリも教師の方で選んだもののみ使用できるように設定している。



宿題スケジュール



宿題の記録

3 具体的場面での自他の気持ちを整理・理解させることで、本人も友だちも心地よい関係で遊べる機会が増えてきた。

- ① 理解教育の実施で、お互いの立場を理解し合う関係が少しずつできてきている。

A君の過去の行動から、A君のことをよく思っていなかったり、A君なりに楽しく過ごしていると思われる場面でも、嫌がる言動が友だちから聞かれたりしたことから、まずは、A君を知ってもらう意味で、道徳の時間に理解教育を行った。名前をふせた上で、「ある男の子の手紙です。」と伝えて、次のような手紙を読んだ後、2つのA君の困りについて話し合ってもらった。(今回はA君不在。)手紙の内容は、A君が大人になった時自分を振り返ったら、きっとこんなことを言うだろうと教師が考えた内容である。

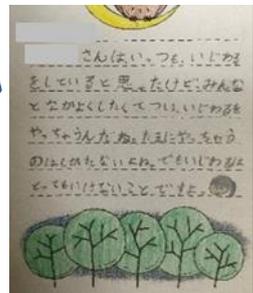
3年〇組のみんなへ
 ぼくには困っていることが2つあります。
 みんなと楽しく遊びたいのに、なぜだかみんなに「しないで」といわれてしまいます。時にはけんかになったり、その後、先生におこられたりすることもあります。お友達と仲良くしたいだけなのに。
 もう1つは、授業中に外におきっぱなしにしておいたどろだんごが気になって気になってしかたがない時があります。気になってとび出したら、先生におこられちゃった。ぼくはただ、どろだんごが気になっただけなのに。

3年〇組のみんなへ



Aさんへ
 Aさんは、いつもいじわるをしていると思ったけど、みんなとなかよくしたくてつい、いじわるをやっちゃったね。たまにやっちゃうのは、しかたないよね。でも、いじわるはとってもいけないことですよ。

交流学級の女の子の手紙



普段の行動から、すぐにA君のことであることは、みんな気づいたようだった。これまで、「どうしてこんなことするの!」と感情的になっていた子ども達が、本当はこんな気持ちだったのかな、そんな風に思っていたの?と意見をたくさん発表し、子ども達なりの気づきをA君への手紙に書いてくれた。授業が終わると、たくさん子ども達が、A君に直接手紙を手渡していた。その後のA君に対する友だちの声のかけ方も変化してきている。

② 衝動的な行動から、友だちを傷つける行動が少なくなってきた。

予想できる場面では、その行動の起こる直前で注意したり、してしまったことについては、絵やイラストを用いて説明したり、素直に謝れるように促したりしていくことで、衝動的な行動が少なくなってきた。時々振り返ることができるように、絵やイラストなどは、ホワイトボードに貼って目につくようにしたり、タブレットの中にまとめておいて、確認がしやすいようにしておいたりした。7月の後半、友だちに注意され腹を立てたとき、その友だちの粘土を踏みつけようとしたにもかかわらず、直前で止めたことがあり、この行動が次につながるという話をした。それから、時々、うっと何かをこらえている場面を見かけたり、手を振り上げて押しとどまる様子が見られたりするようになり、2学期以降、相手を傷つけるような行動は減ってきている。

ホワイトボード



アプリ シンプルノート



【報告者の気づきとエビデンス】

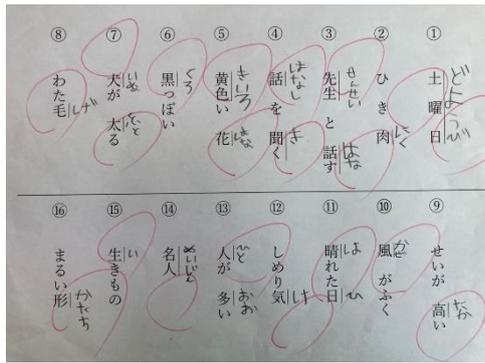
<主観的気づき>

- ① 学校生活のルールが身についてきている。
- ② 学習への意欲が出てきて、学習内容の定着が少しずつできてきている。
- ③ 友だちと心地よい関係で遊べるようになってきている。

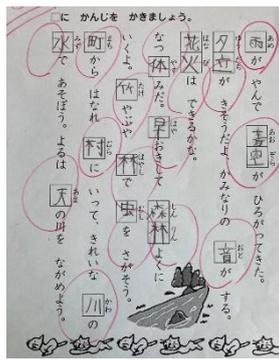
<エビデンス>

- ① 3学期(2月)現在、時間割を自分で確認し、ほとんどの時間、教室移動を休み時間にすることができるようになっている。朝の着替えを忘れることもあるが、声かけだけで、さっさと済ませることができている。授業中の飛び出しは全くない。集中力も増し、与えられた課題に20分以上向き合うことも見られるようになってきた。

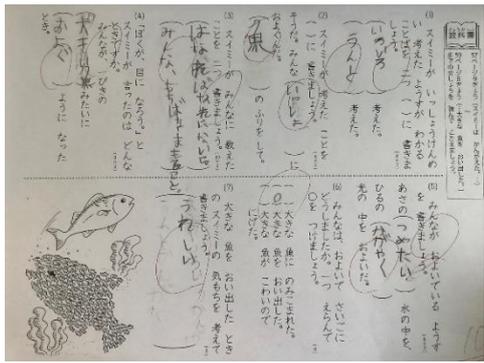
- ②・漢字→1年生の基本的な漢字の読み書き, 2年生の基本的な漢字の読みの9割を習得。
- ・国語(読み取り)→教科書の読み取り復習プリントで, 音声教材利用で8割以上解けた。
- ・算数→1年生内容の基本的な内容の8割を自分で解けるようになった。



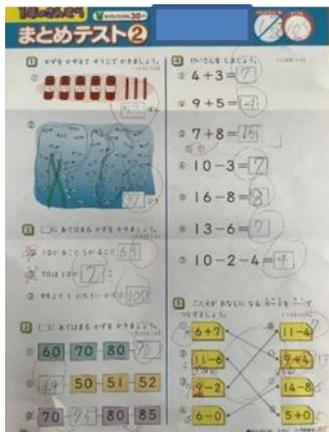
2年生漢字読みテスト



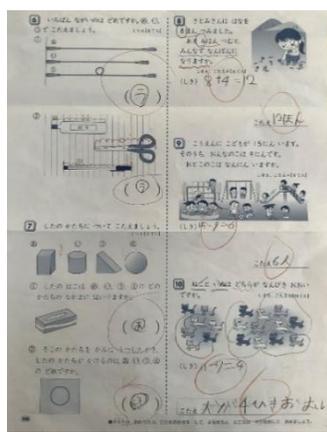
1年生漢字書きテスト



教科書読み取り復習テスト

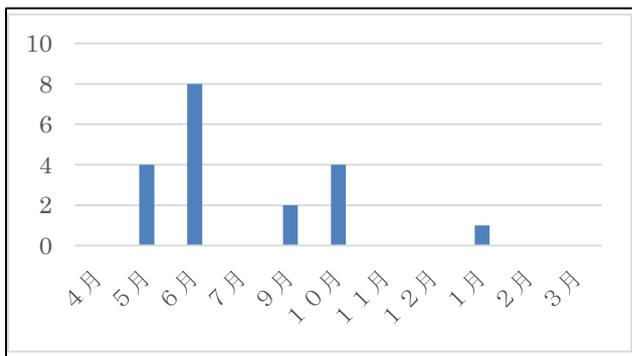


1年生算数まとめテスト

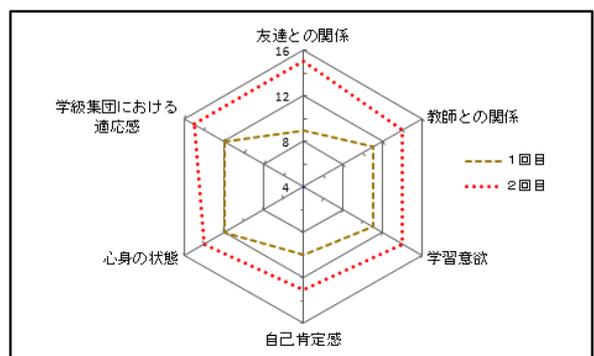


音声教材でテストを受ける様子

- ③・他人を傷つける行為が大幅に減少。小さなトラブルは時々起こるものの, 保護者へ報告したけんか以外の友だちに対する衝動的な問題行動は11月以降, ほとんど起こっていない。(グラフ1)
- ・まわりの友だちが, 体育の時間, みんなの近くでぐるぐる回っているA君を, いいタイミングでゲームに誘ったり, 表現のダンス作りでは, A君が動きやすいように中心に配置してスムーズに動けるように配慮したりしていた。遠足では, 「一緒に食べよう。」と数人の友だちが声をかけ, 自由時間, A君は多くの友だちと遊んでいた。けんかが起こった時もお互いが素直に謝り, すぐに解決できた。
- ・A君自身の学校生活における満足度が上がってきている。鹿児島県総合教育センター監修の「学校たのしいーと」学校適応感の自己評価(9月と2月実施)が6観点すべてで2回目の方が高かった。特に友だちとの関係の評価が上がっていることから, A君自身も友だちとの関係がうまくいっていると実感していることがわかる。(グラフ2)



<グラフ1>



<グラフ2>